

大概の病気は、いきなり起きるように思える。が、振り返ってみると、「あ、あれが前触れだったか?」と思いがたなることもある。

71歳のS子さん。高血圧と糖尿病の持病がある。4日前、なにもしないのに、クラクラしためまいがするようになった。グルグル回るのではなく、フワフワした感じらしい。さらには、両手両足に力が入らず、歩くたびらつづく。ことに、箸使いや書字など、右手の動作がうまくできないことに気付いたという。

急いで頭のMRI（磁気共鳴画像）検査をする。予想通り、脳幹にある橋脳という部位に脳梗塞が見付かった。MRA（磁気共鳴血管画像）では、脳幹へ血液を送っている椎骨動脈にかなり進んだ動脈硬化がみられる。凹凸した血管壁にできた血栓がはがれ、流れて、橋脳の細い血管に詰まったのだらう、急遽入院となった。

とくに、S子さんと。めまいとらつづくまですうまへ歩けなくなっただけなのに、何日も受診しなかったのは何故だろうか？実は、半年前にも、同じような症状を経験してい

たのである。臥床中、なにもしない時に頭がくらくときた。トイレに行くのに、千鳥足のようになって、まっすぐ歩けなかったという。だが、それも、1、2時間であくたった。気にはなったが、のど元過ぎればなんとかだ。かかりつけ医には相談さえしていないようである。今回のめまいも、しばらく経過をみればよくなるだろうと高を括っていたらしい。ま、医者嫌いなワッシーには、S子さんの気持ちから分からないでもない。

だが、惜しい。半年前に、MRAの検査をしていれば、今回の脳梗塞を予防できたかもしれないのだ。高齢者で、ことに高血圧や糖尿病などの基礎疾患を持っている人が、初めてめまいを起したら、せめて医者には相談くらいはしたほうがよい。

（石黒修三 しいはろクリニック・脳神

経外科医… 12/19 北國新聞掲載）